

同 志 社 大 学

2016 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

年 月 日提出

所 属	職 名	氏 名
免許資格課程センター	助教	佐藤翔
研 究 題 目	利用者に新発見を促す書架要素の解明と新たな排架法の構築	
研 究 成 果 の 概 要	<p>社会の直面する問題が複雑化する現在、既存領域の枠を超えた知識創造の必要性が増している。その中で、図書館の排架には従来以上に新たな発見の提供により、利用者の知識構造の変化を促す機能が求められるようになってきている。しかし利用者はどのような書架を前にした場合に新たな発見を得ることがあるのか、その要素は必ずしも明らかになってはおらず、そのため発見を促すことを意図した排架の方法も確立されていない。そこで本研究では書架を用いた複数の実験を通じて、人が新たな発見を得る書架に共通する排架方法の要素を明らかに、それに基づいた新たな資料排架法を構築することを試みる。</p> <p>研究開始3年目の本年度は、前年度までに実施してきた、実験室環境での人の書架閲覧行動に関する実験の成果をまとめ、図書館情報学分野における最大級の国際学会、ASIS&T 2016 年度年次大会で発表した[1]。これは図書の背表紙に記載されてるタイトルのフォントと、カバーの色が図書の注視時間と図書選択行動に与える影響を分析した結果を発表したものである。分析の結果、色の効果は認められなかったが、フォントについては明朝体よりもゴシック体の方が注視時間が長い傾向が確認された。現在は後続実験として、図書の色・タイトルの条件を変えた実験を複数、継続中である。</p> <p>また、過去の実験室実験の成果を踏まえ、今年度からは神奈川県海老名市の海老名市立中央図書館を舞台に、実際の図書館環境で人が図書を選択する際の注視物等を明らかにする実験を行っている。この実験の成果は2017年5月に開催される国際学会、QQML2017で発表予定である[2]。図書館環境を用いた実験については引き続き複数の図書館で実施予定であり、現在、愛知県豊橋市の豊橋市中央図書館での実験実施に向けて交渉を進めている。</p> <p>[1] "Effects of color of book cover and typeface of title and author name on gaze duration and choice behavior for books: Evidence from an eye-tracking experiment", Shoko Nakahata, Emiko Sakamoto, Akiho Oda, Noriko Kobata, Sho Sato, <i>Proceedings of the Annual Meeting of the Association for Information Science and Technology</i> Vol.53, No.1, pp.1-4</p> <p>[2] "Gaze behavior of public library users: Evidence from an eye-tracking experiment". Sho Sato et al, <i>QQML 2017</i>, (accepted)</p>	